

2015年（平成27年）9月定例観察会報告書

六甲山自然案内人の会 2班

実施日： 2015年9月13日（日）

天候： 曇りのち晴れ

コース： 東お多福山登山口バス停（9：20）～登山口分岐・堰堤（9：55－10：10）
～東お多福山山頂（11：05）～雨ヶ峠（12：20）～黒五谷分岐～住吉道出合
～五助堰堤（14：40）～住吉台 解散場所（15：00）

テーマ： 秋のお多福山を散策する

見所： 初秋の樹木・花、お多福山の植生

参加者： ビジター 41名 会員 29名 計：70名

ガイド： ビジター担当 1班 竹岡（12名）、 2班 近藤（8名）
3班 岡本（10名）、 4班 荻谷（11名）
会員担当 松本

観察の記録

1) 東お多福山登山口～登山道分岐

- ・ビジターの受付手続き終了後、挨拶と注意事項の説明に引き続き体操。
（指導 村山） 9：40 観察開始。
- ・カラスザンショウやヌルデなどの裸地に最初に侵入するパイオニアプランツについて説明。
- ・オオバヤシャブシやハリエンジュは砂防用に植えられたが、今では厄介者になっている。
- ・ヌルデ・オオバヤシャブシを観察し、五倍子（フシ）について説明。

主な観察植物

カラスザンショウ ハリエンジュ ヌルデ オオバヤシャブシ ヘクソカズラ
シンミズヒキ ヤブマメ ヤブマオ ウツギ ゲンノショウコ

2) 登山道分岐（堰堤）～東お多福山山頂

- ・堰堤でキブシ、ミズタマソウ・カマツカ・チヂミザサなどゆっくり観察。
- ・ムベの名の由来と、アケビ・ミツバアケビ・ゴヨウアケビとの違い。
（ムベは常緑のつる性で別名トキワアケビ）

主な観察植物

キブシ カマツカ ミズタマソウ チヂミザサ ムベ シラキ タムシバ
トウゲシバ（アルツハイマー病に効く？） マルバハギ コバノガマズミ
ヤマヤナギ ヤマナラシ シラヤマギク イワガラミ

3) 東お多福山山頂～雨ヶ峠

- ・昼食（11:35-11:55）後、六甲山にまつわる話。

①「六甲山の生い立ち」（担当 岡）

約100万年前～プレート（太平洋プレートとフィリピン海プレート）の動きで東と南東から押され隆起して、現在の六甲山となった。

②「50年前の東お多福山と六甲山植林の歴史」（担当 久保）

- ・神戸に来た頃（昭和36年）、東お多福山はススキの山という印象が強かった。
- ・六甲山は明治中期まで荒廃した禿山だった。
- ・1867年（慶応3）神戸開港時2万余だった人口が、1889年（明治22）には13万となり、人口増加による飲料水の不足と疫病の流行（当時は井戸水）により、1900年（明治33）布引貯水池ができる。しかし、ダムに砂利が溜まるようになり、東京帝国大学の本多静六（日本の公園の父といわれた）の緑のダム構想に基づき1902年（明治35）から植林が始まる。度重なる山火事などもあり、緑豊かな状態になるまでには多くの苦難があった。

主な観察植物

ヌルデ ウリハダカエデ アリノトウグサ ネコハギ ヤハズソウ イタドリ
ツリガネニンジン オミナエシ オトギリソウ サルトリイバラ リンドウ

4) 雨ヶ峠～黒五谷分岐

- ・エゴノキの実にはサポニンを含んでいて石鹼として用いた一方、その毒性で魚の捕獲に使ったことを説明。

主な観察植物

エゴノキ ツルニンジン ヒヨドリバナ シラキ アクシバ ガマズミ イボタノキ

5) 黒五谷分岐～住吉道出合

- ・ヒヨドリバナ ジェミニウイルスについて
イギリスの科学誌「Nature」2003年4月に”万葉集に詠まれた孝謙天皇の歌は植物ウイルスについて書かれた世界最古の記録”であるという記事が掲載されたことを紹介。

主な観察植物

キガンピ シロダモ ホツツジ オトコエシ ヒヨドリバナ ミズタビラコ
センニチソウ クサギ マタタビ

6) 住吉道出合～五助堰堤

- ・今春、草木の刈られた場所で、パイオニアプランツが逞しく育っている様子を見る。

主な観察植物

アカメガシワ カラスザンショウ ヌルデ タラノキ ウメモドキ
サルトリイバラ コゴメウツギ

7) 五助堰堤（五助堰堤上部の河原を含む）～解散場所

- ・五助堰堤上部にある河原では水辺の草木 イシミカワ・ボントクタデ・ネコヤナギを観察。
- ・特徴のある花 ナンバンハコベの可愛らしさに魅せられ？黒い種を大切に持ち帰るビジターもいた。
- ・テイカカズラの名の由来の説明と2つが対にぶら下がる果実を観察。

主な観察植物

ヒイラギ イシミカワ ボントクタデ イボタノキ トキリマメ ナンバンハコベ
ネナシカズラ クマノミズキ

- 感想
- ・7月17日の台風17号の影響で、予定していたコース（林道を通り土樋割峠經由東お多福山）を8月24日に一部変更した為、ガイド担当者は定例会の直前まで下見を繰り返すことになった。しかし、ロングコースにも係わらず参加者多く、また満足して帰って頂けたようでよかった。
 - ・東お多福山山頂までは、息を乱して上っているビジターさんもいたが、中盤からゆったりとした下りになり、解散まで全員元気な様子でほっとした。
 - ・青空の下、山頂では薄紫の可憐なツリガネニンジン、黄色く清楚なオミナエシ、そして、風に揺れるススキの穂。途中、クズや数種のハギも見られ、初秋のお多福山を満喫できたのではないかと思います。



キンミズヒキ



ツリガネニンジン

反省点

- ・受付手続きに少し時間がかかってしまったので、受付担当者は事前に打ち合わせをして、記入用紙を渡す、用紙を受け取りバインダーに挟む、お金を確認する、お釣りを渡す、用紙と参加費の最終確認をするなどの役割を確認しておけばよかったと思う。



オトギリソウ



出発前の体操



林道脇の植物の説明



迂回路の案内



東お多福山山頂



「六甲の生い立ち」の説明



「50年前のお多福山」の説明